

**現状と課題**

ライフスタイルや価値観の多様化に伴い、市民の観光志向は、従来の団体中心の「見る」観光から、個人・小グループを中心とする「食べる」「遊ぶ」「学ぶ」「滞在する」参加体験型の観光へと大きく変化しています。

本市には、西日本屈指の海水浴場である室積・虹ヶ浜海岸をはじめ、冠山総合公園や伊藤公記念公園、石城山神籠石や海商通りなど、自然や歴史・文化に育まれた多くの観光資源を有しており、年間約70万人の観光客が訪れていますが、観光拠点のネットワーク化までには至っておらず、既存の観光資源の魅力向上や潜在的な観光資源の掘り起こしなどが課題となっています。

このため、観光客に「選ばれる観光地」となるよう、観光資源の開発や固有のブランドイメージの創出、周辺市町との広域的な連携を図るとともに、農業振興拠点施設「里の厨」を活用し、農業体験や加工体験を盛り込んだツーリズムを推進するなど、多様な観光ニーズに対応する必要があります。

また、テーマや物語性を持たせた観光拠点のネットワーク化や、地域の魅力を活かした独自の観光プログラムの展開により、回遊性を高め、観光客の滞在時間の拡大を促していくことが求められます。

**基本方針**

観光案内所など観光拠点機能の充実を図るとともに、「観光基本構想」に基づき、自然や歴史・文化に育まれた多くの観光資源を有効に活用し、テーマや物語性を持たせた観光拠点のネットワーク化を促進します。

また、地域の観光資源の魅力の向上や光ブランドイメージの創出を通じて、観光PRを展開し、地域の活性化につなげます。

## 政策展開の方向

### (1) 観光資源の創出とネットワークの形成

冠山総合公園、伊藤公記念公園などの観光拠点の活用を促進するとともに、室積・虹ヶ浜海岸など豊かな自然と、第二奇兵隊や石城山神籠石など歴史をテーマにした総合的な観光振興を図るため、関連施設や周辺環境の整備充実に努めます。

また、観光案内所などの観光拠点や観光資源のネットワーク化を図り、潜在する観光資源を掘り起こすとともに、「里の厨」を活用したツーリズムの推進をはじめ、観光ボランティアの育成や観光事業者等との連携による推進体制の充実など、本市の魅力を満喫できる観光振興に努め、観光客の滞在時間の拡大を図ります。

さらに、観光客のリピーター化により交流人口の増加を目指すとともに、観光関係者の主体的な取組みを促進し、観光関連産業の育成と活性化に努めます。

### (2) 光ブランドイメージの創出と観光PRの推進

豊かな自然環境や歴史資源の活用により地域の独自性を高め、観光客の要望に応えられる固有の光ブランドイメージを創出します。

また、観光拠点・観光案内所の充実を図るとともに、観光資源やイベント等を県内外に周知するため、ホームページの充実、観光案内看板や観光ガイドブック等の整備を推進するなど、各種メディアを活用した積極的な情報発信を展開します。

さらに、周南地域や国道188号沿道の市町と連携し、圏域内の広域観光ルートの構築に努めます。

### (3) 特色ある祭りやイベント等の振興

市のイメージアップと観光客の増加を図るため、海水浴場の安全性の向上を図るとともに、冠山総合公園の「花まつり」や伊藤公資料館における特別展、花火大会など、地域資源を活かした特色あるイベント等を展開します。

また、伝統的な祭りや風物詩の振興とPRにより、市内外から集客の増加を図ります。

## まちづくりの指標

まちづくりの指標	近況値 (H23)	後期目標 (H28)
①観光入込客数	770 千人	1,000 千人
②宿泊観光客数	60 千人	100 千人
③「観光の振興」に関する満足度	21.4%	30.0%





### ■ 現状と課題

人口減少は、消費をはじめとした経済活動や地域コミュニティ活動を停滞させるなど、地域社会全体の活力の低下につながる重要な問題であり、交流人口や定住人口の増加により、地域活性化を図ることが大きな課題になっています。

本市の人口は、昭和60年から緩やかな減少傾向に入り、平成22年10月現在では53,004人と、5年間で約1,000人減少しています。こうした中、幅広いUJIターン情報の提供や相談窓口の設置など、大量退職期を迎えた団塊の世代に的を絞った定住対策を進めるとともに、平成20年1月には、関東地区在住の光市関係者による「ふるさと光の会」を設立するなど、本市出身者とのネットワークづくりを進めてきました。

今後は、「おっばい都市宣言」など3つの都市宣言の理念を活かした、魅力ある定住施策の展開や、ホームページ等を活用した積極的な情報発信に努め、団塊世代や子育て世代など多世代の定住を促進する必要があります。

また、観光振興に限らず、文化やスポーツなど様々な分野で多様な交流人口の増加を図る必要があります。

### ■ 基本方針

多世代の同居や近居を促進するなど、子育て世代の定住を促すとともに、ホームページを通じた情報発信と定住希望者に対する総合的な支援体制の構築に努めます。

また、有形・無形の資源の連携を強化し、交流人口のさらなる増加と回遊性の向上に努めます。

### ■ 政策展開の方向

#### (1) 地域の魅力を活かした多様な定住対策の促進

「ふるさと光の会」との連携により、関東地方在住の本市出身者と故郷をつなぐネットワークを確立し、Uターンや二地域居住など、光市への定住につなげます。

また、多世代の同居や近居を促進するなど、子どもたちの心身ともに健やかな成長を支援するための環境づくりを進め、子育て世代の定住を促進します。

さらに、定住に必要な基本的情報の一元化や定住希望者への総合的な支援体制を構築するとともに、ホームページ等を活用した積極的な情報発信に努めます。

## (2) 地域の特性を活かした多様な交流機会の創出

観光振興をはじめ、文化・スポーツ・産業など様々な視点から、交流を促進するとともに、地域の特性を活かしたまちづくりを推進することにより、交流人口の増加と地域や経済の活性化を推進します。

また、本市における交流の核である冠山総合公園をはじめ、農業振興拠点施設「里の厨」や三島温泉健康交流施設など、有形・無形の資源の連携を強化し、交流人口のさらなる増加と回遊性の向上に努めます。

### ■ まちづくりの指標

まちづくりの指標	近況値 (H23)	後期目標 (H28)
①転入者数	1,404 人	2,000 人
②今後もずっと光市で暮らしたいという人の割合	75.4%	80.0%
③「ふるさと光の会」の会員数	204 人	300 人

### ■ 主要な事業例

	後期					担 当
	H24	H25	H26	H27	H28	
★多世代同居や近居の促進	検討 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■					企画調整課 関係各課
「ふるさと光の会」等による人的ネットワークの構築	→					企画調整課
定住相談窓口の充実	→					企画調整課
定住希望者等への情報提供	→					企画調整課 商工観光課
地域特性や地域資源を活かした多様な交流機会の創出	→					企画調整課 関係各課
ふるさと納税制度の啓発	→					企画調整課 関係各課

まちづくり・フォトコレクション「未来に伝えたい風景」  
カメラ付き携帯電話の部 入賞



「笑顔も満開」（撮影場所：浅江小学校）  
吉河 蒼衣 さん